

## 1. 趣旨

裾野市と長泉町では、平成33年度（2021年度）中の供用開始を目指して整備を進めている裾野市長泉町衛生施設組合新火葬施設について、基本的な整備方針や配置計画などを定める基本計画の策定を進めています。平成27年度に策定された「(仮)裾野長泉新斎場整備基本調査報告書」の内容を踏まえて、敷地の拡張に係る配置計画の見直しや、それに伴う施設の諸条件（施設規模や施設計画、火葬炉の運転スケジュール、省エネ計画、事業費等）の検討を行い、その結果を基本計画骨子案としてまとめました。

## 2. 基本方針

- (1) 最後のお別れの場にふさわしい施設
- (2) 故人を偲び、悲しみを癒し、慈しみを感じる施設
- (3) 人と環境にやさしい施設。誰からも愛され大切にされる施設。
- (4) 維持・管理コストのかからない施設

## 3. 施設概要

### ■施設規模・構造

延床面積約2,560㎡ / 地上2階建（会葬者利用は1階のみ） / 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造

### ■火葬炉の運転スケジュール（【図1】火葬タイムテーブル）

- ・葬家1組あたりの火葬時間を120分、火葬炉1炉あたりの運転回数を1日に2回とします。
- ・平成39年度（2027年度）までは、1日最多の火葬件数を8件以下と想定しています。火葬炉4炉で対応します。
- ・平成52年度（2040年度）に1日あたりの火葬件数が最多の8.95件になると想定しています。火葬炉を5炉に増やして運転する計画です。

【図1】火葬タイムテーブル



### ■火葬炉について

- 火葬炉数：4炉+増設1炉（暫定4炉で整備し、将来火葬件数増加に伴い1炉を増設）  
 ※故障時に対応するための予備炉は、メンテナンス工期の短縮、火葬炉の性能向上などの理由から必要ないと考えます。  
 排気設備系統：2炉1系統（増設炉は1炉1系統）  
 使用燃料：都市ガス

### □使用燃料（都市ガス・LPG・灯油）について費用面・災害面・供給面・環境面から比較検討を行いました。

ランニングコストとイニシャルコストの検討では、施設の空調利用を考慮した場合、都市ガスが最も経済的という結果となり、また、地震など災害面での信頼性も高く、供給面や環境面でも評価されます。周辺に中圧導管が敷設されている立地条件も踏まえると、都市ガスの採用が合理的と考えられます。今後、具体的な設計と共に詳細な検討を行います。

### ■施設構成

火葬炉の運転スケジュールを基に各室の利用状況を想定し、必要な諸室の数を検討しました。

### □主要諸室

室名	数	備考
告別室	2室	1室で50人が使える広さ。炉前ホールと一体とし、個室化することで葬家のプライバシーに配慮。直葬（※1）など最期のお別れも可能。
収骨室	2室	1室で50人が使える広さ。
待合室	4室	1室で50席程度。
多目的室	1室	会議室としての利用や、直葬（※1）など最期のお別れの場として使用。（宿泊を伴う利用は不可）

（※1）…直葬：通夜・告別式などの儀式は行わず、自宅または病院から直接火葬施設に遺体を運び火葬する方式

□その他の諸室：待合ホール、キッズルーム、授乳室、更衣室等 ※式場部門は設けません。

## 4. 配置計画

### ■施設計画地

- ・裾野市今里343-1ほか  
（現在の裾野市斎場の敷地及び隣接地）

### ■敷地面積

- ・現斎場と同一敷地内での合理的な建替計画、将来の建替スペースも考慮し必要な区域を敷地範囲とします。  
（平成29年7月25日に都市計画決定済）

### □新火葬施設の建設工事計画と将来の建替え計画

1. 現斎場の西側に新火葬施設の建設工事を行います。
2. 新火葬施設の工事完了後に現斎場の解体及び駐車場等の外構工事を行います。
3. 敷地東側のスペースが将来の建替のためのスペースとなり、同一敷地内での建替が可能となります。



### ■配置計画

- ・室内から富士山が見える位置に建物を配置します。
- ・敷地の周囲には、緑地等の緩衝空間を整備し、周辺環境と調和する計画とします。
- ・工事中も現斎場が火葬施設としての尊厳性を保ち運営することができるよう、工事区画を明確に区分できる計画とします。
- ・切土量、盛土量をバランスさせ、場外搬出土を抑え造成コストを抑制します。

### ■駐車場

- ・普通車用駐車場を80台（ゆずりあい駐車場を含む）、中型バス用駐車場を5台設けます。

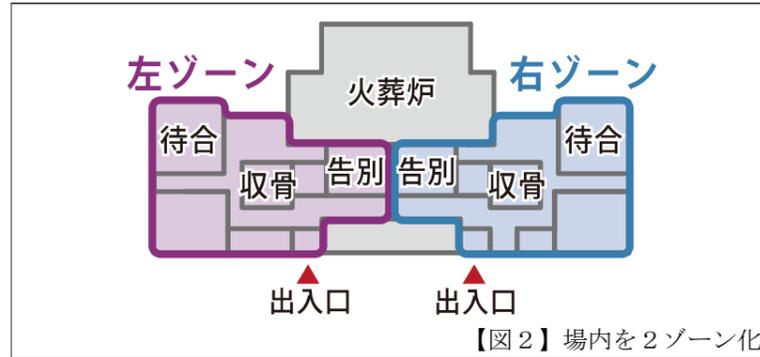


## 5. 施設計画

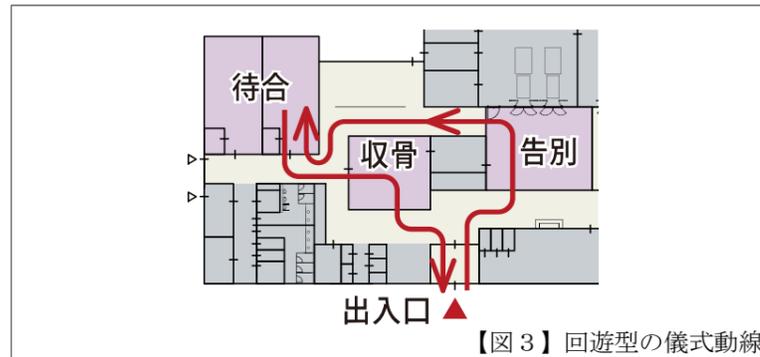
### ■動線計画

柩や会葬者の移動がスムーズであるとともに、それらが交錯しない動線計画を行います。

- ・場内を左右に2つのゾーンに分けます。各ゾーンで入場から告別、待合、収骨、退場が完結することで、隣のゾーンの葬家と会うことがなく、場内の混雑を緩和します。【図2】



- ・回遊型の動線とすることで場内が一方通行になり、他葬家と交錯しない動線とします。【図3】



- ・高齢の会葬者や心身の疲労のピークにある親族に配慮し、短い動線とします。

### ■ユニバーサルデザイン計画

利用者の負担とならないようユニバーサルデザインを採用した施設を整備します。

### ■省エネルギー計画

環境に配慮した施設整備のために、省エネ設備等の設置を行います。今後の基本設計や実施設計において下記の設備を検討します。

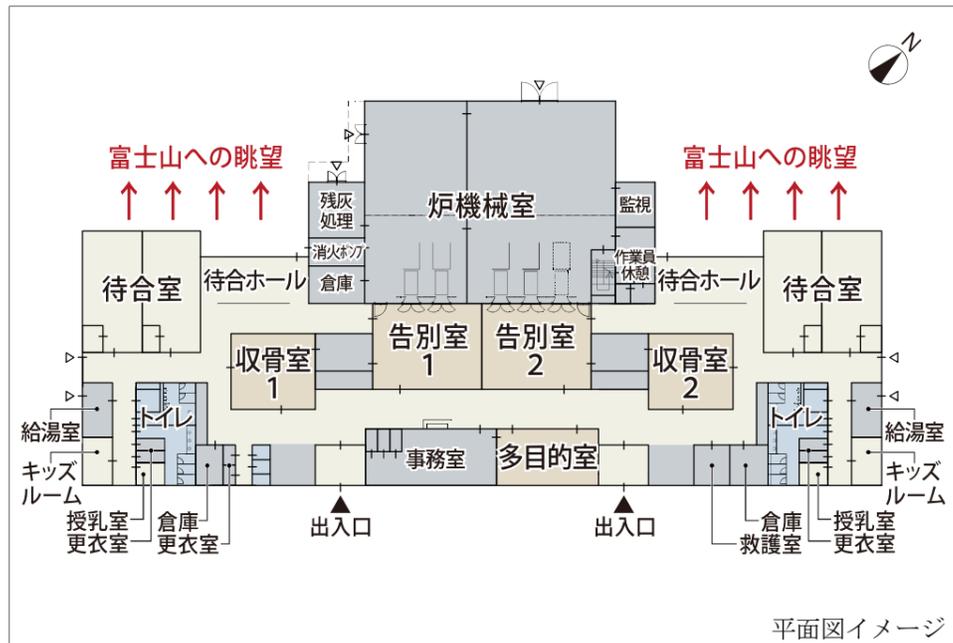
〈省エネ設備の例〉太陽光発電、燃料電池コージェネレーション、LED照明、照明制御（人感センサー・調光）、ペアガラスなど

### ■事業継続計画

大規模災害時などにおけるインフラのバックアップ整備として、非常用発電機等の設置を検討します。

### ■災害対策・構造計画

建物の構造は、自然災害に対して機能と安全が確保できる構造とします。



## 6. 概算工事費等

■具体的な建物構造、仕様などを検討した結果、現時点において、労務単価、建築資材単価など価格が上昇している実績を踏まえ、建設工事発注時期を想定し概算工事費を算出しました。

- 概算工事費：約16億円  
(建築・設備工事、火葬炉設備工事、造成・土工工事、外構工事、仮設工事等)
- その他想定される事業費：約2億7,000万円  
(省エネ設備費、非常用設備費、家具備品費等)

## 7. 事業スケジュール

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
基本計画・基本設計・実施設計	[Progress bar from 2017 to 2019]				
入札・工事			[Progress bar from 2019 to 2021]		
供用開始(予定)					※2021年度中

## 8. その他の事項

### ■その他考えられる施設等

- 動物用火葬炉
  - ・動物用火葬炉を設置する場合は、約1億2,000万円の追加費用が想定されます。
  - ・ランニングコストとして、電気・燃料費で約250万円/年、その他、運営費の増加が見込まれます。
  - ・収骨の有無や手数料など、運用面での課題があります。  
(民間事業での動物火葬は行われています。)
- 霊安室
  - ・霊安室を設置する場合は、約2,000万円の追加費用が想定されます。
  - ・ランニングコストとして、電気・燃料費で約40万円/年の増加が見込まれます。
  - ・宿泊を伴う利用は想定していないため、夜間の管理や、手数料など運用面での課題があります。
- その他必要な諸室や設備  
今後の基本設計や実施設計において、必要なその他の諸室や設備を具体的に検討します。

